

## 第9回稲沢市観光基本計画推進委員会 会議録

【日 時】 令和5年2月28日（火）午後1時30分～午後3時

【場 所】 稲沢市産業会館1階 大会議室

【出席者】 稲沢市観光基本計画推進委員会委員（敬称略）

委員長	大澤 健	和歌山大学経済学部教授
副委員長	榊原 仁	一般社団法人愛知県観光協会専務理事
委 員	西村哲治	公益社団法人日本観光振興協会中部支部事務局長
	古川正美	稲沢市観光協会事務局長
	阿部一洋	稲沢商工会議所事務局長
	木下正章	名古屋鉄道株式会社 地域活性化推進本部地域連携部ツーリズム担当課長
	河村宏一	愛知西農業協同組合常務理事（経済担当）
	鈴木康仁	尾張大國霊神社権禰宜
	水上俊貴	愛知県観光コンベンション局観光振興課長
	吉田恵子	公募市民

【事務局】	足立和繁	稲沢市経済環境部長
	内藤邦将	稲沢市経済環境部商工観光課長
	加藤敦史	稲沢市経済環境部商工観光課主幹
	梶浦英雄	稲沢市経済環境部商工観光課主査
	酒井仁志	稲沢市観光協会観光コーディネーター兼事務局次長
	櫻木 彰	稲沢市観光協会事務局次長
	川村英二	稲沢市観光協会事務局主幹
	石井好美	稲沢市観光協会事務局

【傍聴者】 2名

【会議次第】

- 1 委員長あいさつ
- 2 協議事項
  - (1) パブリックコメントの実施結果について
  - (2) 稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）の中間見直しの確定について
  - (3) 稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）の進捗状況について
  - (4) 次年度の取り組みについて
- 3 その他

## 【会議の概要】

### 1 委員長あいさつ

[委員長]

今年度、各委員には計画の改訂に向けた議論を進めていただいております、前回の委員会までで改訂案を作成し、委員会終了後にはパブリックコメントを行った。今回の委員会では、パブリックコメントの結果を受けて最終決定をすることになる。言い残すことがないように、積極的な発言をお願いしたい。今回の委員会開催にあたって前日から稲沢市に入っており、今日午前は、天候に恵まれ、観光関係者に案内されて木曾川周辺の視察を行った。見事な晴天は、改訂された計画の前途を祝福しているようでもあり、実際そうなるようになっていこうようにしたいと思っている。各委員にはよろしくをお願いしたい。

### 2 協議事項

#### (1) パブリックコメントの実施結果について

[事務局]

資料1「稲沢市観光まちづくりビジョン(第2次稲沢市観光基本計画)」改訂案に対するパブリックコメントの実施結果」に基づき説明

[委員①]

パブリックコメント実施結果のNo.2・3について、No.2では「コミュニティバスを利用した回遊を想定して、利用しやすいバス運行に努めていく」という回答をしながら、No.3では「担当部署への意見として承る」というような回答をされていて、かなりの差を感じる。このことはNo.8の教育分野に関する意見でも見られる。市全体で計画に取り組むという視点から考えると、意見を受けて担当部署への働きかけを行うとか、それに近い姿勢があった方が良いのではないかと。

[委員長]

今の意見に関連して、コミュニティバスの利用状況について、市では調査を行っているのか確認をしたい。

[事務局]

No.2・3及びNo.8について、回答の修正を検討したい。No.3のコミュニティバス、No.8の教育分野ともに本委員会終了後には担当課あてに文書により伝える予定をしているが、意見を伝える際に、何らかの働きかけをしていきたい。パブリックコメントの回答にもその旨を表現したい。

コミュニティバスに関する調査については、担当課の職員などがバスに同乗し、乗降するバス停にどのような傾向があるか調査を行っているかと聞いている。この調査も参考にして、路線や運行ダイヤの再編なども検討されているものと承知しているが、観光視点での調査は行われていない。今後は担当課と調整をし、調査項目に観光関連の視点を追加するよう働きかけていきたいと思う。

なお、コミュニティバスは、市民病院を始めとする公共施設への移動手段としての運行が主目

的と考えており、とはいえ、路線上に観光スポットも幾つか存在することから、このアクセスにおいても活用できればというスタンスでいる。観光協会では「コミュニティバスに乗って観光地へ行こう!!」というパンフレットを作成するなど、市民に向けてPRしている。

[事務局]

コミュニティバスについては、担当課でアンケート調査を定期的実施しているが、項目の中には乗車目的を尋ねる設問もあると思うので、観光を目的に乗車する方を抽出して集計することもできるのではないかと考える。

[委員長]

No.2 と No.3 については、同じ趣旨の意見のため、一つにまとめても良いのではないかと。最初に市民の足としてのコミュニティバスという観点から述べ、観光目的での利用の促進も図るという回答ではどうか。回答末尾には、利用状況を調査した上で今後も利用しやすいバス運行に努めるといふまとめ方を提案したい。No.8 の稲作についても、良い意見をいただいたと思う。農業体験の一環として行うことについて関係部署と協議する、というような回答としてはどうか。アクションプランのいずれかの項目に関連させて、実施について検討するという方向性が良い。事務局は、あくまでも観光を所管する部署なので、観光の取り組みの一つとして関係者と調整するという考えを持ってほしい。

[委員②]

No.8 の稲作に関する意見について、小学校で稲作を学ぶ授業は、地域性もあるため全ての学校ではないものの、既に取り入れられている学校も一部にはある。回答作成の際に念頭に置いてもらえればと思う。

[委員長]

関係する部分としては P.24 「地域と連携した農業体験メニューの創出」の取り組みに該当すると思うので、この記載と関連付けた回答を検討してはどうか。

[事務局]

今までの委員長及び各委員の発言を受け、これを反映した回答内容に改めたい。

[委員長]

No.7 について、稲沢市では、観光大使としての活動を依頼している事例はあるか？

実施していないなら、取り組んでみてはどうか。観光大使にどれほどの効果があるかは分からないが、「稲沢市観光大使」と名乗ってもらって各所でアピールしてもらっただけなので、検討してみても良いと思う。稲沢市が観光に取り組む姿勢のPRにも繋がるのではないかと。

[事務局]

現在、検討しており、具体化に向けて進めていければと思う。

[委員長]

お金をかけて実施する必要はないと思う。やっても良いと言ってくれる人がいればお願いするということでどうか。既に広く人気を得ている人に依頼するのは資金の面等で問題になることが多いと思うが、これから人気を得ていこうとする人なら実現しやすいのではないか。

[委員①]

No.7に関連して、稲沢市出身の「タレント」に限定しなくても良いのではないか。大澤委員長のような、各地で講演を行うことがある人などに大使を依頼して、機会を見てPRしてもらおうということでも良い。講演する場合は、お金を払わないといけませんが、大使として活動してもらうことは名刺を渡して各所でやってもらおうと良いと思う。愛知県観光協会でも、打診してくる方もいるが、費用面もあって具体化していない。稲沢市においても参考になればと思う。

[委員長]

本件については、実施に向けて調査等進めていただきたい。

[委員③]

No.14の飲食店がツアーのようなことを行っていたことについて、観光協会では何か把握しているか？

[委員②]

観光協会では、市内飲食店がこのようなことを行っていたことは承知していない。観光協会としても、はだか祭りを観光の良い素材としてツアーを企画し、集客を図ることも重要と思う。ツアーとは少し違うが、市内の旅館で、はだか祭りへの参加を含むプランを提供している事例があり、かなりの利用があることは把握している。

[事務局]

商工観光課としても、このツアーのことは把握していなかった。意見の提出を受けて調べてみると、名鉄大里駅近くの飲食店が食事客を祭り会場まで送迎するツアーを行っていたと分かった。はだか祭りの揉み合い場面の見方など、祭りを初めて見学に来る方にも楽しめるようにツアー化していたようだ。この店が理由は不明だが廃業した後、当地では別の店が営業していることから、このツアーは行われていない状況にある。

[委員長]

こういったツアーは、観光の観点から貴重なもので、市が直接関わるかは別として、周辺飲食店などによって継続されると良いと思う。

[委員④]

No.12 の「ジブリパークへの来訪者をサリオパーク祖父江に誘客する企画ができるの良い」という意見について、同じ公園というところから関連付けて意見が出されたものと思う。二つのパークは、かなり離れた位置にあるが、参考に愛知県の取り組みを紹介したい。現在愛知県では、主に県外からのジブリパーク来訪者を想定し、ジブリパークのほかに県内を周遊してほしいという思いから、ジブリパークのチケット購入サイトに特設サイトへのリンクを載せている。この特設サイトでは、県内の観光プログラムを紹介しており、昨年 11 月のパーク開園からの数か月で、約 20 プログラムの登録と 102 件の利用があった。短期間で 100 件を超える利用があったということは、かなりの反響があったものと考えている。特設サイトに登録する観光プログラムは、各自治体・観光協会から提出されたものを掲載する形式にしている。稲沢市においても、地元を活用したプログラムを提出する中で、サリオパーク祖父江を登録するという事になれば、パブリックコメントへの回答も達成されると考えるので、ぜひ検討していただきたい。

[委員長]

本件については、「愛知県の観光部局と積極的な連携を図りながら」という表現が加わるとより良い回答になると思う。事務局で検討してほしい。

パブリックコメントで 6 人 16 件の意見が出たということは、稲沢市の観光への取り組みが順調に進んでいることを示しており、また市民の観光に対する関心の表れでもあると感じる。とても貴重な意見をいただいたものと思う。事務局は、これまで出た様々な意見やアドバイスを回答にも反映していただければと思う。

委員からの意見も出尽くしたようなので、事務局には現在の回答案に各委員からの意見を反映した回答を作成していただき、これを公開することを委員会は了承することとしたい。

(2) 稲沢市観光まちづくりビジョン（第 2 次稲沢市観光基本計画）の中間見直しの確定について

[事務局]

資料 2「稲沢市観光まちづくりビジョン（第 2 次稲沢市観光まちづくり）計画の中間見直し（後期計画）」（案）に基づき説明

[委員①]

パブリックコメントの結果、末尾に追加された用語集について、「SDGs」を記載しておく必要はないか。「ブランディング」「ICT」「グリーンツーリズム」といった言葉についても、追加しても良いのではないか。

[委員長]

どこまで記載するか、事務局の判断になると思うが、可能であれば今の発言にあった用語や、「DX」という言葉が追加されても良いように思うので検討してほしい。

[事務局]

ご意見を踏まえて、再度検討し、最終的に記載する用語を決定していきたい。発言の中にあつた用語以外にも記載すべき用語があれば追記したい。このことについては、計画の主要部分ではないと判断されるため、委員長及び副委員長への確認を行って、計画の最終稿とすることをご了承いただければと思う。

[委員長]

ほかに意見もないようなので、事務局は、先ほどの用語集についての変更を行ったうえで計画の確定とし、この計画を今後推進していただくようお願いしたい。

(3) 稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）の進捗状況について

(4) 次年度の取り組みについて

[事務局]

資料3「稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）」アクションプラン進捗状況【2022年度実績】により説明

[委員⑤]

パブリックコメントへの回答として、「今後の取り組みに活かしてまいりたい」という趣旨のものがあつた。このように回答するのであれば、改訂後の計画で記載されている方が良いのではないかと。観光大使に関することやウルフドッグス名古屋との連携のことを追記してはどうかと思う。

[委員長]

判断が難しい意見だと思う。パブリックコメントでいただいた意見とはいえ、一人の声であり、これを受けて計画に記載するとなると、様々な意見を全て反映するのかということになる。先ほどの意見も踏まえた上で、次年度の取り組みについても事務局において修正するということが良いか、確認しておきたい。

[事務局]

今の段階では、今後検討していきたいと回答するのが精一杯。2023年度以降の取り組みに盛り込むかどうかの検討ができていない状況であり、次回以降開催する委員会において、順次報告をさせていただきたい。

[委員長]

個人的にはNo.15のウルフドッグス名古屋との関係について、もう少し前向きに記載しても良いのではないかとと思うので検討してほしい。

[委員⑥]

前回の委員会終了後に観光協会では勝幡城の御城印を購入し、お城に興味がある知人に贈ったところ、大変喜ばれた。この知人は既に勝幡城のこともよく知っていた。知人は過去に訪れたが、現地には石碑があるのみで周辺に店舗等もないので、そういった施設があると良いということ言っていた。また、稲沢市出身のタレントについても、先日放送されたテレビ番組で祖父江町出身の歌手（新妻聖子さん）が幼い頃に食べていたお菓子が復刻販売されて、番組の影響もあり人気となっているらしい。タレントが観光大使となって情報発信することは観光面で良い反響もあると思うので、ぜひ検討してもらえたらと思う。

[委員長]

勝幡城については、ぜひ市の上層部にも伝えてほしい。市民からのこうした意見が大きくなったときに、施設の整備がなされていくというのが良いと思う。

[委員⑥]

進捗状況一覧表の1ページにあるバスツアー「すべてはここから始まった！信長ゆかりの地を巡るツアー」は、定員に対して満席での開催だったとの説明があったが、満席ということは他にも参加希望者がいたのではないかと思う。来年度にもまた企画していただければ、自分も興味があり参加してみたいと思うので検討してほしい。

[委員長]

今の意見は、観光協会ですっかり検討していただければと思う。ただし、バスツアーの開催はなかなか大変なことも多いようなので、まずは市民の方から先ほどのような声があったということを観光協会ですべて受け止めておいてほしい。

[事務局]

今のご意見の中にあつた勝幡城については、改訂後の計画22ページで、前期計画には記載していなかった「勝幡城跡を核とした武将観光施設整備等の誘客促進方策の検討」という取り組みを追加した。現段階で施設整備を行うと記載はできないが、可能性としては検討したいという思いで追加した。現地を訪れた方から、石碑しかないという声を聞いており、市としても何とかしたいと思うが、周辺には住宅も多くなかなか難しいと感じている。

[委員長]

先ほどの意見については、市の内部で積極的に共有してほしい。

[委員⑦]

1年のうちの1日・2日という日程で行われるイベントに向けて長期間、観光協会や商工観光課が努力していると感じている。こうした努力も大事だが、逆の視点から、関係者が準備に奔走しなくても誘客できる仕組みづくりができる方が良いのではないかと。例えばJR貨物の操車場跡地

は、自分は鉄道ファンというわけではないが、何となく惹かれるものがある。朝や夕方といった時間帯による見え方の違いや、北にある陸田の陸橋や南の六角堂の歩道橋から見た景色のように、稲沢市の広い範囲で鑑賞スポットがあるように思う。これをイベントとして誘客しようとするのではなく、情報発信・PRを行うことで誘客に繋がらないかと考えている。

情報を発信することで興味を持った人が操車場跡地に勝手に集まり、その人出を見込んで近くに例えばJAの産直店が出店されて、その賑わいを受けて商工会議所も販売スペースを出すという流れができると良いのではないか。単発のイベントを開催することも重要だが、イベントによらない賑わいの創出を目指すということをもっと考えても良いと思う。

もう一つの例として、千代田地区のヒマワリ畑の取り組みがあり、これも土壌を良くするためにヒマワリを植えたものが観光スポットになっている。1年を通して季節ごとに、桜やアジサイなどの異なる花の情報を発信することで、市内のどこかで綺麗な花を楽しめる、というのも良いのではないか。

[委員長]

今の意見に近いものとしては、祖父江のイチョウ黄葉が先鞭をつけたのではないかと思う。元々素材としてあったものが観光スポットとなり、イベントも行われてハード整備も完了し、誘客の体制が整ったのではないか。ストーリーとしては良い事例だと思うので、第2・第3のイチョウに当たるものが創出されるようにいろいろと仕掛けていってほしい。

[委員⑧]

先日は無事に国府宮はだか祭りが催行されたことをご報告するとともに、協力いただいた皆さんに感謝申し上げたい。進捗状況報告書中のイベント民泊の実施について、今年のはだか祭りでは揉み合いへの参加者が2,000人を下回った。宿泊部分が活性化されるとコロナ禍前の状況も近づくのではないかと思うので、取り組みを進めてほしい。民泊について調査研究を進めていくという記載があるが、現在の状況と、今後どのように進めていくか、という点を教えてほしい。

[事務局]

現在は報告できるような情報を持っていない。民泊については、国民体育大会が愛知県で開催されたときに、稲沢市はボクシング会場となり、実際に民泊に取り組んだという実績がある。また、海外のスポーツ少年団が本市を訪問して交流を図るときに実施している。こうした事例を参考にしながら、イベントと結びつけられるように調査・研究を進められたらと考えている。

[委員長]

今の質問は、稲沢市に取り組んでほしいということと、取り組む際には国府宮としても関わっていきたいという意味だと推測するので、ぜひ実施に向けて前向きに検討してほしいと思う。

[委員⑨]

パブリックコメントの中にあった小学校で稲作に関する授業を実施してほしいという意見につ



いて、稲沢市ではまだ行われていないが、一宮市では行われている学校もあるので参考にお伝えしたい。小学4年生を対象として、一宮市内で10校弱の学校で稲作の授業が実施されている。もち米を育てて、卒業式に合わせて紅白の餅を作るという取り組みがされていると記憶している。稲沢市でも実施するということになれば、農協としてもできることは協力していきたいと思う。

[委員⑤]

観光まちづくりラボの取り組みについて、稲沢市の観光まちづくりビジョンでは、市民の方がいかに観光に取り組んでもらえるかが重要になる。ラボに参加していただいている方に対して、何年か取り組んだらバッジを進呈するとか、良い成果をあげた場合には感謝状を渡すというような、モチベーション向上に繋がる制度があると良いと思う。ラボの参加者は基本的にはボランティアだと思うので、やる気の維持・向上に努めてほしい。

[事務局]

ラボの参加者に対してインセンティブを与えることができれば、モチベーション向上に有効と考えるので、観光協会と商工観光課で協議し、何らかの仕組みづくりを検討していければと思う。

[委員長]

委員からの意見は出尽くしたようなので、事務局は本委員会での意見を踏まえ、観光まちづくりビジョンの推進に努めていただくようお願いしたい。

### 3 その他

[事務局（観光協会）]

稲沢市観光協会から、第17回いなざわ梅まつり（3月4日・5日／愛知県植木センター）、稲沢イラスト・アート展（3月12日～4月2日／稲沢グランドボウル）、名鉄ハイキング（5月20日・21日／国府宮駅～新清洲駅）について紹介。

[事務局]

現在委嘱している委員の任期は2年間で本日までとなる。コロナ禍の令和3年3月の就任以来、各委員にご協力いただいたことに感謝申し上げます。今後も観光まちづくりの推進に取り組んでいきたいので、公募以外の委員については引き続き委員をお願いしたい。公募委員については、12月頃に新たに募集を行うので、周囲の方にPRをお願いできればと思う。

以上